



日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門

1. 六ヶ所 BA サイトでの工事が順調に進捗

・六ヶ所村の BA サイトでは各施設、設備の建設工事を本格的に開始し、工事現場は活況を呈している。管理研究棟は6月中に杭工事を完了し、基礎の鉄筋工事を開始した。また、計算機・遠隔実験棟の基礎工事を開始したほか、サイト周りのフェンスや入口ゲートの設置を完了するなど、すべての工事の工程は今のところほぼ予定どおり進んでいる。(図1参照)

2. 六ヶ所 BA サイトへ見学者が多数来訪

・6月18・19日に青森市の青森グランドホテルで開催された第2回ITER理事会では、ITER参加極へのBA活動への参加のガイドラインが示されたほか、各極の代表約40名が参加して六ヶ所のBAサイトへのツアーも行われた。

・日本原子力学会とプラズマ・核融合学会が主催する「核融合エネルギー連合講演会」が6月19～21日、青森市民ホールを主会場に開催された。国内外の研究者ら約380人が参加し、池田ITER機構長の講演を始め、核融合の今後の進め方についてのパネル討論や講演、幅広いアプローチについての多数の発表があった。開催期間中の20日には、参加者128名がバス3台に分乗し、六ヶ所(日本原燃施設およびPR館、BAサイト)へのテクニカルツアーが行われた。(図2参照)

3. 国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動

・六ヶ所における事業チーム員は欧州からの専門家4名を含めて計10名となり、本格活動を開始している。

・原型加速器の実証試験を行う加速器系では、日欧の専門家による、安全基準や機器間のインタフェースなどに関する技術打合せを行い、設計、試験、開発スケジュールの検討を進めた。6月に東海でIFMIF安全ワーキンググループ会合、7月には六ヶ所でインタフェース会合を開催した。また、6月にイタリアのジェノバで開催された第11回EU粒子加速器会議では、EUの高周波系およびビームダンプ設計担当者と日欧間の装置取合の打合せを行った。

・液体リチウムに重水素イオンビームを当て中性子を発生させるターゲット系では、原子力機構の大洗センターと連携して実施する模擬リチウムループの設計作業を開始すると共に、大学との共同研究の準備を進めている。

・材料照射を行って機械特性試験等を行うテストセル系では、CIEMAT(スペイン)やFZK(ドイツ)とテストセルモジュールやシールドの取り外し方法に関して、意見交換やビデオ会議を実施した。



計算機・遠隔実験棟建築現場(杭工事中)

管理研究棟建築現場(基礎工事中)

図1 六ヶ所 BA サイト近況(平成20年7月10日撮影)



図2 「核融合エネルギー連合講演会」六ヶ所ツアー(平成20年6月20日)。